

服薬コンプライアンスの向上を目指した仕掛けの創出

2024年2月17日(土) 第14回仕掛学研究会 日比野泰章¹⁾、松村真宏²⁾

1. 仕掛けの目的

薬物治療における課題のひとつとして、「服薬コンプライアンスの向上」が問題となっている。その課題解決を目指した2つの仕掛け(アイデア)を表出し、実証実験を実臨床(たんぽぽ薬局にて投薬した患者)にて実施した。

2. 実証実験①・・・107名対象

普段、机の中など目に付かない場所にしまい込んでいる薬が入った袋をたんぽぽ薬局のマスコットキャラクターである「ぽぽるん」と「お薬は、飲まれましたか?」のメッセージを表記した『薬袋スタンド』に立てかけ、リビングのテーブルなど、普段から目に付く場所に1か月間配置することで飲み忘れが防止できるかを検証した。



その結果、毎日かかさずにお薬を飲んでいる方が57.8%から83.2%まで増加し、また、服薬状況が改善したという方が27.1%、服薬が維持できたという方が68.2%、服薬が悪化したという方が4.7%であった。

3. 実証実験②・・・121名対象

食前、食後に服用する薬を「ぽぽるん」のイラストと「おくすり」の文字を表記した『ランチプレート』のスペースに入れて、1か月間、食事を摂取することで、飲み忘れが防止できるかを検証した。

その結果、毎日かかさずにお薬を飲んでいる方が67.6%から81.0%まで増加し、また、服薬状況が改善したという方が24.0%、服薬が維持できたという方が67.8%、服薬が悪化したという方が8.3%であった。



4. 結論と今後の課題

創出した2つの仕掛け(アイデア)において、服薬コンプライアンスの改善および維持効果が一定量、発揮した結果となった。薬が入った袋や薬の存在を目視することで、薬の存在や服薬することを自然に認識し、うっかりと飲み忘れることを防止することができた。

ただし、『薬袋スタンド』では、「薬の量によっては幅が狭い」や「組み立ての溝が浅いので外れやすい」、「意外と場所をとる」、「倒れやすい」、「文字が見にくい」などのネガティブな意見が、『ランチプレート』では、「陶器なので重い」や「デザインが幼稚すぎる」、「楕円よりも四角の方がいい」、「サイズが小さい」、「仕切りが浅い」、「枠が少ない」などのネガティブな意見も表出したため、事業化するためには、改良などの更なる精査が必要である。